

常陸多賀駅周辺地区整備事業デザイン監修者選定プロポーザル
審査結果報告書

令和4年4月

常陸多賀駅周辺地区整備事業デザイン監修者選定委員会

はじめに

日立市では、人口減少・少子高齢化の時代においても持続可能なまちとするため、「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を進めており、特に、JR常磐線各駅を、都市的土地利用及び生活の拠点となるべき重要な箇所として位置付け、各駅周辺における居住環境や利便性の更なる向上を図ることで、歩いて暮らせるまちづくりの実現を目指しています。

常陸多賀駅については、令和2年3月に「常陸多賀駅周辺地区整備計画」が策定され、都市の拠点にふさわしい「賑わいある市街地の再生」や「ひたちBRT」のルート延伸整備を見据えた「交通結節点としての機能強化」に向け、駅周辺でのハード・ソフト両面にわたるまちづくりが重点的に推進されているところです。

特に、施設整備の中核となる、東西自由通路や駅舎、広場等の整備については、よかっぺ通りや大学通りなど、まちのメインストリートの起点として、地区の中心となる「まちの顔」にふさわしい機能性や調和のとれた空間デザインを備えると共に、並行して検討が進められている駅西側低未利用地（市有駐車場等）の一体的・連続的な土地利用転換とあわせて、賑わいの相乗効果を生み出す整備が期待されています。

市では、これら駅周辺における一体的な空間デザインを「デザイン監修者」に依頼し、その知見等を活用しながら「良質な都市景観」や「魅力あるにぎわい空間」の実現を図ることとしており、公募プロポーザル方式により、「デザイン監修者」を募集し、「常陸多賀駅周辺地区整備事業デザイン監修者選定委員会」において、その選定を行いました。

本委員会での「デザイン監修者」の選定については、全30者から応募のあった企画提案について、厳正かつ公正に審査・選考を行い、必要十分な能力や経験等を有する人材を選定したので、選定に関する資料を添えて、本書により報告します。

常陸多賀駅周辺地区整備事業デザイン監修者選定委員会

委員長	小柳 武和
副委員長	岸井 隆幸
委員	小川 郁夫
委員	作山 康
委員	佐々木 早苗
委員	妹島 和世
委員	吉成 日出男
	(委員名 50音順)

1 結果

参加者からの企画提案について、選定委員会において厳正かつ公正に審査を行った結果、次のとおりデザイン監修者*及び次点者を選定しました。

デザイン監修者 株式会社 マウントフジアーキテクトスタジオ一級建築士事務所

次点者 湯澤まちむら ON 設計共同体

2次審査（ヒアリング）参加者

高橋一平建築事務所・東京ランドスケープ研究所設計共同体

株式会社 プランツアソシエイツ

PRINT AND BUILD+sinato+羽藤英二設計共同体

(2次審査参加者の掲載順は受付番号順)

*デザイン監修者：デザイン監修業務委託の調整の相手方となる優先交渉者



(現在の常陸多賀駅西口の様子)

2 講評

常陸多賀駅周辺地区整備事業における駅周辺施設の整備にあわせ、「まちの顔」にふさわしい機能性や調和のとれた駅前空間の形成に向け、施設等のデザインを統括・監修する「デザイン監修者」の選定プロポーザルについて、本委員会において審査を行いました。

企画提案では、地区の「くらし」や「にぎわい」、さらには「持続可能なまちづくり」という多様なテーマが設定され、全30者の参加者からは、まちづくりからのアプローチ、建築物デザインからのアプローチなど、各々の特長を活かし創意工夫された密度の高い提案が提出されました。

1次審査は、参加者名を伏せる形で行い、2次審査に進出する5者を選出しました。数々の優れた提案の中でも、常陸多賀の新たな魅力創出の観点などから、デザインやまちづくりの内容が突出して評価できるものについて、提案の妥当性、成立性を議論したうえで選出しました。

2次審査では、参加者へのヒアリングを行ったのち、総合評価によって、デザイン監修者として最もふさわしいと考えられる最優秀1者と次点者を選定しました。

ヒアリングでは参加者から提案内容についてプレゼンテーションをしていただきながら、以下の点を重点的に確認・審査しました。

- ① 地区の課題や特性、プロポーザルのテーマを的確に捉えた提案内容となっているか、また、その背景にどのような設計思想や考え方を有しているか
- ② デザイン監修の対象となる施設には、自由通路や駅舎などの鉄道施設（限られた敷地の中で鉄道事業上の様々な制約・条件が生じる難易度の高い設計）が含まれるため、コストコントロールに加えて、鉄道施設として実現可能な、妥当性を持った提案となっているか
- ③ 確固たるコンセプトと提案の妥当性・実現性は、設計熟度を高めていく過程において相反する可能性も考えられるため、その際に、安易な対応ではなく、高い柔軟性を持ってバランス良く計画を実現できる資質と能力、それに加えて、駅舎や広場など、設計主体が異なる施設を総合的に調整・コントロールする能力を有しているか
- ④ 地域連携に対する考え方やアプローチ手法、意見反映の方針など、地域と連携しながら、まちづくりをけん引する資質・能力を有しているか

いずれの参加者も豊富な経験と十分な実績を有している中、最優秀となった参加者はまち全体を意識しながら、次点者については駅と周辺の建築物を中心にという観点から提案がなされていました。

最優秀として選定した『株式会社マウントフジアーキテクトスタジオ一級建築士事務所』の提案は、コンセプトとなるテーブルというキーワードが、様々な機能や規模に対応できる許容性を有しており、また、駅を中心に距離圏と時間軸で示したまちづくりの取組方針についても、中・長期的な視野を持ちながら、持続的なまちづくりの展開に期待ができる内容となっていました。

加えて、駅周辺の配置機能についても、「ものづくり」のすそ野を広げる Fab カフェや子育て支援など、日常生活の拠点となる常陸多賀駅とその周辺エリアの特徴を的確に捉えた提案となっており、提案全体を通して、デザイン監修者に必要な視点が充足している内容となっていました。

ただ、自由通路及び駅舎空間の提案は、現時点でコンセプトに留まっています。今後、常陸多賀駅周辺地区が魅力的なものとなるのかは、まちづくりの観点のみならず、建築デザインの観点も含めた双方向からのアプローチが肝要であることから、駅舎・自由通路等の建築物を、提案のコンセプトが具現化された、常陸多賀駅にふさわしい、シビックプライドの醸成、新たなまちの魅力創出に資する空間デザインとして実現していただけるよう、要望として申し添えます。

次点の『湯澤まちむらON設計共同体』の提案は、駅周辺空間での魅力を、積極的・意欲的に創出する内容を評価し、優秀に選定しました。

「駅だからこそできること」を追求した提案では、駅の東西に配された魅力的な機能と空間、それらを双方向で結ぶ交差形状の自由通路が特徴的でした。

駅とその周囲に配置されたみどりの丘が実現すれば、海が見える日立駅とは対照的にもなり、新しい魅力を生み出す駅になると評価しました。

一方で、特徴である交差形状の自由通路は、流動の非効率を生じさせる懸念があり、それを上回るメリットが不明確な印象がありました。また、駅とその周囲に機能が集中しており、まちづくりへの拡がりや地域との連携に関して、最優秀となった提案には及びませんでした。

『高橋一平建築事務所・東京ランドスケープ研究所設計共同体』の提案は、自由通路・駅舎という建築物の新たな可能性を感じさせてくれました。大きく構えた駅と自由通路が広場のように東西をつなぐというコンセプトを、新たな駅の在り方を創造するチャレンジとして評価しました。

一方で、デザイン監修範囲に含まれる、東西の駅周辺エリアを、緑地や広場などとして活用する内容でしたが、機能の提案にとどまっており、にぎわい創出に資する魅力的な空間活用に関して、具体的な説明が不足している印象がありました。

『株式会社プランツアソシエイツ』の提案は、駅の西側に南北方向のデッキを設置することで、市街地・駅前広場レベルと自由通路レベルの間に、中2階レベルの通路を加え、建物と市街地との調和を図るとともに、西口の一体性・連続性を実現する、具体的かつ現実的な提案として評価しました。

また、日立市のシンボルの一つであり、まちづくりの成り立ちにも重要な意味を持つ「さくら」を全体のコンセプトとしている点が、市民にとって親しみのある美しい空間デザインの実現が期待できると評価しました。

一方で、魅力的な賑わい空間の創出とまちづくりへの提案については、他者の提案に至らないという印象がありました。

『PRINT AND BUILD+sinato+羽藤英二設計共同体』の提案は、多様なアクティビティの創出につながる駅前広場空間の使い方や、自由通路を緩やかな曲線としながら、人々の居場所となる滞留空間を創出するアイデアが魅力的であり、アーバンデザインセンターを核としてまちづくりを推進するという方針の的確性についても評価しました。

一方、工場の屋根をモチーフとした西口ファサードが、地域住民がアイデンティティや誇りを感じることが出来る「まちの顔」になり得るのか、議論を要するところでした。

今後、常陸多賀駅周辺地区の良好な都市空間の実現に向けては、デザイン監修者のみならず、日立市や地域、事業者が密接に連携しながら、事業が推進されることを切に願います。

結びに、本プロポーザルの企画提案に際し、貴重な時間を費やし、真摯に研鑽された参加者の皆様に敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます。

3 選定経過

(1) 選定までの主な流れ

期 日	概 要
令和3年11月24日	第1回選定委員会（日立市役所庁舎5階 会議室） ・実施要領、審査方法等について協議
12月10日	募集要項の公表
12月21日	現地説明会／29者参加（多賀市民会館及び現地）  
12月10日～28日	質疑受付期間（令和4年1月14日に回答を公表）
令和4年1月21日	参加表明書提出期限
2月4日	企画提案書提出期限／提出件数30件
2月28日	第2回選定委員会（日立市役所庁舎6階 研修室） ・一次審査 一次審査により、二次審査に進出する者（5者）を選定 
3月24日	第3回選定委員会（日立市役所庁舎5階 503・504 会議室） ・二次審査 参加者へのヒアリングを行い、総合評価によりデザイン監修者を選定  

(2) 1次審査について

ア 日時：令和4年2月28日（月）午後1時30分から午後4時20分まで

イ 会場：日立市役所庁舎 6階研修室

ウ 出席者：本プロポーザル選定委員 7名（全員出席）

エ 1次審査の経過

(ア) 提案者の技術力(実施体制や実績)について、審査基準に基づき評価・確認をした。

(イ) 上記評価とあわせて各委員が個々に30者の提案を審査した。

(ウ) (ア)(イ)の審査をもとに、各委員からの推薦により、更に詳細に審議すべき提案の絞り込みを行った。

(エ) 絞り込んだ提案について、詳細な審議を行ったうえで、投票を行った。

(オ) 投票結果を踏まえて協議、確認のうえ2次審査進出者を選出した。

(投票結果)

得票数	提案数	投票後の協議結果
7	1案	二次審査進出者
6	1案	
3	3案	
2	5案	非選定
1	3案	
0	2案	

(3) 2次審査について

ア 期日：令和4年3月24日（木）

イ 会場：日立市役所庁舎 5階会議室 午前10時から午後4時40分まで

ウ 出席者：本プロポーザル選定委員 7名（全員出席）

エ 審査方法

(ア) 2次審査進出者5者に対しヒアリング（プレゼンテーション及び質疑応答）を行った。

(イ) 提案書の内容及びヒアリングの内容について審議を行い、総合評価により最優秀者と次点者を選考した。

以上